

地域連携事業終了報告

連携団体名	コープさっぽろ	実施年度	2021～2022 年度
事業テーマ	SDG s 推進に向けた連携プログラムの開発（コープさっぽろ協働事業）		
参加教員	代 表 者：佐藤信 共同参加教員：		
事業目的	<p>コープさっぽろは、これまで SDG s（持続可能な開発目標）に基づく事業活動の取り組みを強めており、その具体化の一つとして 2019 年 12 月に北海学園大学と包括的な連携協定を結んだ。</p> <p>この協定を受けて本事業では、コープさっぽろの SDGs 活動をはじめとした組織運営に学生が関与するとともに、コープさっぽろ側も大学の授業に関わるなど一層の関係構築を強めてゆくことで地域社会の抱える諸課題の解決に資するような連携プログラムを開発することを目的とした。</p>		
経過報告	<p>【2021 年度】</p> <p>主に以下にみる 3 点の取り組みを行った。</p> <p>1. 一般教育科目「北海道学特別講義「持続可能な地域社会づくり—生協と SDGS」へのコープさっぽろからの講師派遣</p> <p>2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の下でオンラインと対面講義を併用しながら実施した。コープさっぽろの講師派遣は第 3 回から第 13 回まで登場していただいた。講義タイトルと担当者（役職は当時のもの）は以下の通りである。</p> <p>4/13 第 1 回 講義ガイダンス（佐藤信）</p> <p>4/20 第 2 回 コープさっぽろの沿革と概要（佐藤信）</p> <p>4/27 第 3 回 コープさっぽろの事業紹介（中島専務）</p> <p>5/11 第 4 回 コープさっぽろの移動販売車事業（外川部長）</p> <p>5/18 第 5 回 コープさっぽろの宅配事業（小松宅配本部長）</p> <p>5/25 第 6 回 コープさっぽろの店舗事業（小林店舗本部長に代わり八木橋氏）</p> <p>6/1 第 7 回 コープさっぽろの配食事業（岩田部長）</p> <p>6/8 第 8 回 エコセンター事業活動について（川崎センター長）</p> <p>6/15 第 9 回 コープさっぽろの組合員組織活動について（高口組織活動部長／吉田委員長）</p> <p>6/22 第 10 回 コープさっぽろ基金事務局の取り組み（酒井基金事務部長）</p> <p>6/29 第 11 回 コープさっぽろと北海道（地域政策室 山口マネージャー）</p> <p>7/6 第 12 回 持続可能な開発目標（SDGs）とコープさっぽろの取り組み（鈴木 G 長）</p> <p>7/13 第 13 回 SDG s とコープさっぽろ（持続可能な社会づくり）（大見理事長）</p>		

7/20 第14回 北海学園大学でのSDGsの課題について（佐藤信）

7/27 第15回 講義のまとめ（佐藤信）

2. フードバンク活動の視察（11月17日）

佐藤ゼミナール学生（6名）による、コープさっぽろフードバンク（宅配トドックの返品を福祉施設に譲渡する活動）の視察および福祉施設職員へのインタビューを行うとともに、担当の鈴木氏（コープさっぽろ組織活動部）からの講義および質疑を行った。（視察記録はゼミⅡ報告書として作成している）。

3. 組合員活動委員会へのインタビュー（12月3日）

佐藤ゼミナール学生（4名）がコープさっぽろ本部にあるCho-co-tto編集部を訪問し、広報誌「Cho-co-tto」作成に関する質疑応答を行った。参加学生は店舗アルバイト経験者や宅配トドックの利用者であり、「Cho-co-tto」作成に際しての、紹介商品の選び方、冊子作成の手順などの意見交換を行った。（この視察記録もゼミⅡ報告書として作成。）

【2022年度】

1. 第2回海のクリーンアップ大作戦（6月18日、石狩新港東4丁目）の参加

2021年秋から始まった海のクリーンアップ大作戦に、佐藤ゼミ（2・3年計25名）が参加した。会場の一つである石狩新港に赴き、プラスチック等其他のごみ拾いを行うとともに、参加者へのインタビューを通して参加者の属性や意識について確認した。

2. 2022年度協同組合論への講師派遣

2022年度2学期に開講している経済学部専門科目である協同組合論（佐藤信担当）に、以下の講師による講義を行った（2022年11月17日～12月8日、計4回実施）
（講座テーマと講師名）

- ① テーマ「POS戦略」 講師：川崎正隆マーケティング部部長
- ② テーマ「コープさっぽろの広報戦略」 講師：緒方恵美広報部部長
- ③ テーマ「マイボトルエコアクション」 講師：鈴木昭徳組織本部長補佐
- ④ テーマ「エシカル消費とコープ商品」 講師：高森雄輔商品開発部部長

総括

【成果と課題】

2019年12月からの包括連携協定締結後の連携事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の下で本格的な実施とはならなかったが、上記のような活動を進めることができた。連携事業の成果は以下のように整理できる。

第一は、大学講義へのコープさっぽろ関係者の参加である。2021年には一般教育科目である北海道学特別講義へ講師として参加したが、講師としての登壇はその後も継続している。また、コープさっぽろの講師に加え、北海道ろうきんや農協、漁協などの協同組合関係者にも登壇してもらう講義をすすめている。

第二には、コープさっぽろのSDGs活動等へのゼミ学生の参加である。2022年の第2回海のクリーンアップ大作戦へゼミ生が参加したことを契機として、その後はゼミの範囲を超えた参加となりつつある。

第三に、連携事業を進める中で、広報誌「Cho-co-tto」の北海学園内への配付依頼（2021年7月）があり、学内に毎月最新号がおかれるようになったことも成果の一つである。

第四に、大学内のSDGs推進に向けた取り組みの開始である。コープさっぽろが取り組んでいる組織活動のうち、2021年度から開始した「だから、マイボトルエコ宣言」に着目し、大学での実施可能性を検討し、水平リサイクル可能なペットボトルの回収ボックスの設置の検討を始め、実現に至った。

今後の課題としては、第一に、コープさっぽろおよび本学の窓口担当者が1名ずつであり、連携事業の継承のためにも今後は複数体制が必要と考えられる。第二に、水平リサイクル可能なペットボトルの回収ボックスの設置を北海学園生協の敷地内に行ったが、混入が見られるとともに低回収量の現状にある。回収ボックスのデザイン（透明ボックスへの変更）に工夫するなど今後の取り組みの強化が必要となる。第三に、海のクリーンアップ大作戦への参加を引き続き行っているが、できれば運営段階から学生等の参加が望まれる点である。